

◆プレゼンを自分で作成しよう

1 対象児童生徒（対象学級）の実態 <ul style="list-style-type: none">・ 高等部 1 年 重複障害のある生徒 2 名・ 場面緘黙・自閉症のある男女生徒 2 名 計 4 名
2 指導目標 <ul style="list-style-type: none">・ iPad の音声機能を使って、音声でコミュニケーションをとったり発表したりできる。・ プレゼンテーションの編集した内容を自分で操作しながら発表できる。
3 取組の中心となる教科・領域等 自立活動
4 使用したアプリ、周辺機器 <ul style="list-style-type: none">・ アプリ：カメラ機能、Voice Over 機能、Keynote、PowerPoint・ 周辺機器：テレビ、アダプター、HDMI ケーブル
5 指導の経過及び児童生徒の変容 《自撮り》 <ul style="list-style-type: none">・ 身だしなみに気をつける目的で、相手にどんなふうに見えるのかを意識するために自撮りを始めた。iPad 画面を見ながら、カメラに視線を合わせたり、笑顔を作ったりできるようになった。いつも目をつぶった写真が多い生徒もどんなふうにしたら写りが良いのかを考えて表情を作れるようになった。 《プレゼンテーション作成・発表》 <ul style="list-style-type: none">・ 現場実習や校内実習での体験やその感想等をまとめ、プレゼンテーションを行った。・ 重複障害のある生徒 2 人は Keynote で編集をして、ビデオ・写真を取り込みながら、発表内容は手書きで仕上げた。机上で指ひとつでできる作業には取り組みやすいようだった。吹き出しを作ったり、アニメーションを利用したりもできるようになった。・ 場面緘黙のある生徒 2 人は PowerPoint を利用して、パソコンで作ったものを iPad に取り込んで原稿を Voice Over 機能で読ませるように準備した。友達の代読ではなく自分で伝えられることがうれしいようだった。周りの人に音声で自分の思いを伝えたいという意欲が高まった。
6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等） <p>クラスの半分の生徒が場面緘黙で、学校生活の中では発声しないという環境でクラスメイトとのコミュニケーションを円滑にする目的で iPad を利用してきた。自分の力で自分のペースで発表できたときの喜びが自信につながり、「クラスメイトの生徒と話をしたい」という目標をもつようになった。</p>